

施策分類名	30 農業
施策の目的	■留萌の地力を掘り起こし、地域経済の活発なまちにすること
施策分類の計画終了時の目指す姿	●農業の担い手の確保や育成、効率的な農地集積が進み、優良な主食用米が安定的に供給され、南るもい米ブランドが市内外から認知されています。

No	成果指標	単位	基準値	2015調査	2016調査	2016目標値
41	農業販売額(JA南るもい幌糠支所取扱数値)	百万円	628.0	543.4	568.7	628.0
43	地元産品であることを意識して商品を選択する市民の割合	%	51.7	59.6	59.9	65.0

plan(P)

Do(D)

上記施策を推進するために貢献する事務事業

事務事業名	実施主体	事業費(総額)	事業費(一財)	一般人工	嘱託人工	臨時人工	これまでの改善経過(手段、事業費等)
農林行政統括事業	市	320千円	320千円	0.01人工			効率的な執行
中山間地域等直接支払交付金・中山間地域等直接支払制度推進事業	市	17,067千円	3,994千円	0.11人工			耕作放棄地の防止及び多面的機能の増進を図るため、対象集落に指導を行う
多面的機能支払交付金、多面的機能支払推進事業	市	15,908千円	3,847千円	0.10人工			農業資源の維持・取組組織の支援
北海道農業担い手育成センター負担金	市	90千円	90千円	0.01人工			北海道農業担い手育成センターへの正会員としての負担金
農業経営基盤強化資金利子負担金	市	120千円	60千円	0.01人工			制度負担の継続
経営所得安定対策直接支払推進事業補助金	市	2,412千円	0千円	0.27人工			制度の名称変更
菜の花プロジェクト推進事業	市	1,073千円	1,073千円	0.05人工			土壌改良による収量拡大に向けた石礫除去、破碎を行う
北海道土地改良事業団体連合会負担金	市	40千円	40千円	0.01人工			北海道土地改良事業団体連合会への負担金
新規就農者支援事業	市	969千円	969千円	0.01人工			H26年度新規
農業・福祉連携6次産業化支援事業	市	354千円	354千円	0.01人工			H26年度新規
青年就農補助金	市	750千円	0千円	0.01人工			H24年度新規(国制度)
るもいの顔の見える農業・漁業元気プロジェクト事業	市	2,543千円	1,343千円	0.10人工	0.2人工		H25新規事業
礼受牧場管理事業	市	172千円	172千円	0.10人工			H21年度より牧場機能(放牧受入)の休止
農村交流センター管理事業	市	2,521千円	1,925千円	0.01人工		1.0人工	H25年度から、指定管理→直営化
畜産館管理事業	市	354千円	354千円	0.03人工			H21年度より観光施設的な活用を図るため、留萌観光協会へ業務委託
防災ダム管理事業	市	1,527千円	1,527千円	0.03人工			H25観測機器の修繕工事の実施
防災ダム管理用道路維持補修等工事	市	0千円	0千円	0.01人工			全額国費事業(国制度)
農業を核とした産業創出プロジェクト(繰越明許分)	市	42,400千円	42,400千円	0.01人工			全額国費事業(国制度)だが、H26収入として扱っているため全一財
農産物乾燥施設整備支援事業	市	25,830千円	2,730千円	0.01人工			H27新規(道地域づくり交付金制度)

事業費計 114,450千円 61,198千円 人件費仮換算 9,386千円

※人件費については、H27職員人件費平均単価を用いて算出する。

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点を自己評価してみてください。

check (C)

地元産品を意識して商品を選択する市民の割合の数値は、ほぼ横ばいとなっているものの、目標値を下回っている状況から、引き続き、身近な店舗や産直販売等により、農産物を購入できる環境整備や、情報発信等に努め、関係機関と連携してのものづくりの創出を始めとした事業を展開していく。

市民満足度に応えるためにも、新鮮な農産物が安定的に供給されるよう、産直野菜の生産拡大に向けた振興支援や、消費者が生産者を支える仕組みづくり、さらには、新たな担い手の確保を行っていく必要がある。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

成果指標数値の目標を達成するためには、安全・安心な農産品の供給環境を守るための、人と農地と農村集落の維持、整備が不可欠である。農家戸数の減少や高齢化の中にあって、今後中心となる担い手が、規模拡大や機械の更新、さらには、機械の共同利用などを行いながら、現行の農地面積を維持できる施策の推進が求められている。また、新たな担い手の確保をはじめとした人材確保については、喫緊の課題であり、新規就農者支援制度等も活用しながら進めていく必要がある。

本地域における主要作物である米に関しては、高品質米産地として「南るもい米」のブランド化が図られ、地元消費や米の販売額も伸びており、これまで、官民、関係機関上げて「南るもい米」を幅広くPRしてきた結果といえる。しかしながら、米政策の大転換がH30年度に迫っており、米農家の所得減少が避けられない状況の中、転作田を活用した他の作物の導入推進や大区画化等の土地基盤整備の導入支援により、地域農業の強化、体制整備を図っていく必要がある。今後においては、各関係機関との連携の下、販売力の強化や、機械の共同利用を始め、地域の営農体制の整備、組織化等を進めながら、少ない担い手により効率的な農業を展開していくための方策について、関係団体含め取り組んでいく必要がある。また、生産農家が著しく減少した、野菜、花卉の生産支援や新規就農者の確保、さらには、地元農産物の需要拡大を図り、付加価値の創出による収益の確保を図るための、新たな加工生産等に取り組んでいく必要がある。

生産者、商工関係者、飲食店、観光産業従事者などが効果的に連携しながら、留萌の食を高める機運が整いつつあり、引き続き、地場産品の消費拡大を進める仕組みづくりが必要と考えている。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action (A)

新規就農者支援対策については、H26年度から制度化した新規就農者支援事業により、積極的な担い手の確保と幌糠地区に新設された農業・農村支援センターが中心となって、実習から定着に向けた一体的な支援体制を推進を図っていく。農業農村の多面的機能を発揮させるためにも、多面的支払交付金制度の活用を図りながら、農村集落の維持、活性化を図っていく。「人・農地プラン」を効果的に活用、見直しを図りながら、今後、中心となる担い手への農地の利用集積や、転作田を活用した畑作物の面積の拡大、地域農業を担う共同利用組織や法人化等への支援を講じ、収益性の高い農業の実現と所得の拡大を目指し、取組を進めていく。

また、高齢農家や女性農家、さらには、障がい者等が新たな農産加工に取り組むことで、地域の農産物の需要を喚起し、新たな商品開発を目指す取り組みを通じ、農商工連携や、農業と福祉の連携の推進を図りながら、6次産業化を進めていく。

plan(P)

$$D_o(D)$$
$$D_o(D)$$

事業費計	6,853千円	6,685千円	人件費仮換算	2,737千円
------	---------	---------	--------	---------

- 75 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

有害鳥獣による農作物被害は減少しており、電牧柵の設置やエゾシカの駆除が一定の成果を上げていると思われる。ただ市街地への出没状況をもても、エゾシカを根本的に減らすことには至っておらず、駆除により個体数を調整することが重要と思われる。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

エゾシカや近隣町村において食害が急増しているアライグマなどの駆除対策について、地元猟友会と連携しながら対策を講じていかなければならないと考える。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

平成27年度はエゾシカで117頭、アライグマで14頭を駆除した。
エゾシカについては引き続き120頭(計画頭数)を目標に事業を進める。
アライグマについては、捕獲頭数が増加と思われることから、箱わなの整備や貸出期間を調整し効率的な捕獲を行う。

plan(P)

$$D_o(D)$$
$$D_o(D)$$

事業費計	3,552千円	1,545千円	人件費仮換算	7,772千円
------	---------	---------	--------	---------

- 77 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

※合致する成果指標数値がないため、記載しない。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

後継者の減少と高齢化の進展により懸念される耕作放棄地の発生を防ぐため、担い手への農地集積を推進し、農業経営の安定を図る。
また、優良農地の保全、違反転用を防ぐため、農地パトロールを実施する。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

農地法等の改正に伴い、農業委員会の業務が増大している中、農地法等の適正執行に努めるとともに、農地パトロールを適宜実践し、優良農地の保全に努める。なお、農業委員会法の改正に対応した条例改正を行う。

plan(P)

$$D_o(D)$$
$$D_o(D)$$

事業費計	16,308千円	3,754千円	人件費仮換算	3,653千円
------	----------	---------	--------	---------

- 79 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

人工造林や除間伐・下刈りなどの森林保育施業が計画的に行われているが、市内森林の林業用作業道がまだまだ足りないことから、整備を必要としている森林や管理が行き届いていない森林が4割程度存在している。
木材が適齢期を迎え、今後、計画的・集約的に搬出除間伐を行っていくための林業用作業道の建設のほか、地域材の利活用を進めるための各種対策を講じる必要がある。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

森林の管理については、最小限の経費により効率的な管理が求められていることから、現行の事業を森林整備推進の基本としていくが、事業内において推進する森林整備の経費配分を変更するなど優先度が高い施業を推進していくための検討も必要である。
今後とも、この目的を達成するために様々な取り組みについて検討していかなければならない。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

森林を整備しても短期間で効果は現れない。継続して施業を行うことが、目標達成への第一歩だと考える。そのため、現行の事業を継続して実施することにより国土の保全及び多面的機能の増進が図られる。
また、森林所有者及び地域住民に対し森林が有する多面的機能について幅広く周知し、森林施業や森林保全の必要性について啓発することも大切である。
地域資源の有効活用や、適齢期を迎えた人工林資源について、現状の資源量・効率的施業方法・搬出や保育施業に必要な路網整備などの情報も整理収集しながら、地域単位で一般民有林も含め、関係機関と連携した検討チームにおいて議論、検討を進めていく。

施策分類名	32 漁業
施策の目的	■留萌の地力を掘り起こし、地域経済の活発なまちにすること
施策分類の計画終了時の目指す姿	●漁業の担い手の確保や育成が進み経営基盤が安定し、積極的な設備投資など経営改善に取り組み、安全・安心な水産品が供給されています。

No	成果指標	単位	基準値	2015調査	2016調査	2016目標値
42	漁業生産高	百万円	748.8	544.8	450.0	748.8→
45	漁業従事者数	人	37	29	28	38

plan(P)

上記施策を推進するために貢献する事務事業

Do(D)

事務事業名	実施主体	事業費(総額)	事業費(一財)	一般人工	嘱託人工	臨時人工	これまでの改善経過(手段、事業費等)
水産行政振興事業	市・協議会	996千円	996千円	0.01人工			経費節減に努めた事業実施
漁業近代化資金利子補給金	市	42千円	42千円	0.01人工			時代のニーズに対応した規則改正等
水難救難出動費交付金	市・救難所	500千円	500千円	0.01人工			経費節減に努めた事業実施
共同調査試験研究事業	市・漁協・大学	985千円	366千円	0.30人工			新規事業メニュー・共同事業実施機関の検討
漁港管理事業	市・協議会	839千円	673千円	0.10人工			経費節減に努めた事業実施
水産業持続的発展推進事業	市	1,065千円	565千円	1.00人工			技術確立への段階的成果

事業費計	4,427千円	3,142千円	人件費仮換算	11,113千円
------	---------	---------	--------	----------

※人件費については、H27職員人件費平均単価を用いて算出する。

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

近年、魚価安傾向、漁業従事者の高齢化及び後継者不足、地球環境の変化等に伴う漁業資源の減少により、当市漁業生産高は減少傾向にある。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

地球環境の変化等に伴い漁業資源が年々減少している中、漁業資源の維持・培養を図っていく施策として、栽培漁業を中心とした事業を展開しているが、生産者(漁業者)のみの取組では限界があるため、継続的な行政支援更には産学官連携した共同試験事業の実施による基礎調査が必要である。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

現在の施策の継続実施による顕著な費用効果が現れてこない状況にあるが、地道な事業継続が必要である。
さらに資源増大策に加え、磯焼け対策などを始めとする海洋環境の改善を目的とした施策についても検討・実施していく必要がある。

plan(P)

$$D_o(D)$$
$$D_o(D)$$

事業費計	0千円	0千円	人件費仮換算	155千円
------	-----	-----	--------	-------

- 83 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

地元産品を意識して商品を選択する市民の割合数値が伸びており、身近な店舗や産直販売等により、1次産品を購入できる環境整備や、情報発信がされている結果と考える。JA南るもいで開設するスーパー「ルピナス」の中でも、地域産品にこだわり、野菜のほか南るもい米の販売にも力を入れている。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

本地域における主要作物である米に関しては、高品質米産地として「南るもい米」のブランド化が図られ、地元消費やコメの販売額も伸びている。今後とも販売促進PRを続けることが効果的な手法であるとする。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

この事業により、南るもい米に対する『高品質米』としてもイメージが拡大しており、今後とも官民関係機関を上げて幅広くPRを続けたい。

plan(P)

$$D_o(D)$$

事務事業名

[illegible]

事業費計	0千円	0千円	人件費仮換算	0千円
------	-----	-----	--------	-----

- 85 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

電灯使用量については、年々減少傾向となり、節電意識の向上もはあるが徐々に浸透していることから引き続き市民周知を行っていく。
再生品の使用やエコドライブの取組みはほぼ目標数値達成することができた。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

省エネを推進し、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の発生抑制に寄与するため、環境月間における街頭啓発や環境パネル展、広報紙により啓発活動を実施している。
また、ホームページで家庭でできる省エネ意識の向上を図るため「環境家計簿」を引き続きPRを行う。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

今後、電力の自由化により電力料金が値下がりすると思われるが、引き続き節電に向けて周知を行う。
環境月間で行っている啓発活動を、9月に開催するリサイクルまつりの中でも実施し市民周知を図る。

plan(P)

$$D_o(D)$$
$$\text{Do}(D)$$

事業費計	46千円	46千円	人件費仮換算	777千円
------	------	------	--------	-------

- 87 -

指標数値から分析し、目標値との乖離理由や課題、問題点等を自己評価してみてください。

check(C)

※合致する成果指標数値がないため、記載しない。

施策の推進(成果指標数値を伸ばす)するために、効果的な手法かどうかを検証してみてください。

再生可能エネルギーの導入をトータルコーディネートする北海道再生可能エネルギー振興機構へ加入し、再生可能エネルギーの推進に関する情報収集を行っている。

上記検証、分析を踏まえ、平成29年度に向けて、事業そのもの或いは事業手法を見直す余地はありますか。

action(A)

今後も同機構へ加入を継続し、再生可能エネルギーの推進のために情報収集を行っていく。